



横浜市立大学 地域貢献通信

Vol. 5
2022. 9

市民に親しまれる大学でありたい

横浜市立大学は、横浜とともに歩む大学として、研究・教育・診療の力で市民や地域社会に貢献します。
この通信では、市大が取り組む様々な地域連携活動をご紹介します。

地域実践研究

横浜市立大学では、研究の力で地域や社会の課題解決に寄与することを目指して地域の方々と連携した研究活動を行っています。

地域と学生のギャップ解消を考慮した大学連携型 観光マーケティング・プロジェクトの検証 2nd —食でつなぐ東京、横浜、日本、そして世界—

国際教養学部 有馬貴之 准教授

本研究は若者の消費者心理と地域の販売心理のズレを解消し、観光の振興に役立つ大学ならではのマーケティング手法を構築することを目指しています。2021年度は築地場外市場商店街を対象に「食」を活用した観光マーケティングの実証実験として、コロナ禍におけるオンラインツアーの開催や紹介冊子を作成しました。

2022年度は築地場外市場と横浜中華街の交流機会の創造も組み込み、2023年度まで継続して大学連携型マーケティングの手法をさらに広めていきます。

また、今年度は柴田典子（国際商学部）准教授による「未来につなぐ持続可能な街を目指したファンづくり」とも連携し領域横断的な研究へと発展しています。

●●● [関連記事はこちら](#)



海洋都市 横浜うみ博 2022 市大も出展

8月6日（土）、7日（日）に横浜うみ博が3年ぶりにリアル会場で開催され、横浜市立大学から、糖鎖生物学研究室の学生と教員、横浜市立大学同窓会、学生団体TEHs（テフズ）と科学倶楽部が参加しました。

研究用に野島海岸や相模湾で採取したカニやウニの標本等をリサイクルして展示した「市大うみラボ」は、生物多様性の維持の大切さを楽しく学べるコーナーになりました。また、海水を使用したスーパーボールづくりは小学生でにぎわいました。

別会場の進交会館では、環境を考える軽食（サスシーちくわ等）の提供やSDGs かるたとすごろく、動画上映会などが実施されました。



●●● 関連記事は[こちら](#)

商業施設 に学生の アイデアを！



国際商学部の企画立案型実習は、毎年違うテーマでさまざまな企業や自治体に学生のアイデアを企画立案するアクティブラーニングによる授業です。

昨年に引き続き、今年も「三井アウトレットパーク 横浜ベイサイド」へのアイデア提案というテーマで実施されました。

横浜市立大学では地域社会が抱える課題を発掘し、地域の人々と一緒に解決できる、課題解決力のある人材を育成することに取り組んでいます。

●●● 関連記事は[こちら](#)



学生だけで空き家を改修し街のにぎわい創出を目指す団体「せとさんち」ではさまざまなイベントを開催しながら、この場でどんなことができるかを模索しています。7月30～31日には夕涼み会と夏祭りが開催され、地域の方々がたくさん訪れていました。夏休み中はサッシュやキッチン、天井やトイレなど、学生のDIYによる改修作業をメインに活動していますが、今後はクラウドファンディングやzineの作成なども計画しています。

日々進化している様子はSNSで配信しています。

空き家利活用と まちづくり 「せとさんち」

●●● 詳しくは[こちら](#)

→ [Instagram](#)、[Facebook](#)、[Homepage](#)



After (2022年)



Before (2019年)

